
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第108号 2009年4月18日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2009年度第1回研究例会のご案内	2
『あるライブラリアンの記録』正誤表	
日本図書館文化史研究会 2009年度研究集会のご案内	4
2009年度研究集会個人発表募集のお知らせ	5
オプションツアーのご案内	6
『図書館文化史研究』第27号原稿募集のお知らせ	
『ニューズレター』原稿募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2008年度第3回研究例会報告	7
「図書館に関する科目のあり方報告書(案)」への意見の提出	8
運営委員会通信	11
事務局だより	12
事務局の変更について	
25周年記念事業剰余金の使途について	
会費納入のお願い	
住所変更等のご連絡をお願いします	
会員動向	

日本図書館文化史研究会
2009年度第1回研究例会のご案内

2009年度第1回の研究例会を、下記のように実施することになりました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程： 2009年5月16日（土） 13時30分～16時
- 会 場： ドーンセンター（大阪府立総合女性センター）4階中会議室
大阪市中央区大手前1丁目3番49号
<http://www.dawncenter.or.jp/top/index.jsp>
- 交 通： 京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を
通って1番出口より東へ約350m
地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m
JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り
沿いに西へ約550m
※ 会場・交通案内の地図は3ページに掲載しました。
また、次のURLをご参照ください。
<http://www.dawncenter.or.jp/shisetsu/map.html>
- 内 容： CIE図書館旧職員に聞く
- ゲ ス ト： 豊後レイコ氏、川上繁治氏
- 参 加 費： 1,000円
- 申込方法 次の事項を明記して、下記申込先まで、はがき、ファックス、
または電子メールにてお申し込みください。
◆ 氏名（ふりがな）、所属、「情報ライブラリー視察」参加
の有無
- 申 込 先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町908
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール：oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス：028-670-3671
- 申込締切： 2009年5月10日（必着）

○ プログラム

13:30-14:00 ドーンセンター情報ライブラリー視察

- ◆ 情報ライブラリーの概要は、ドーンセンターのウェブサイト中の情報ライブラリーのページをご覧ください

<http://www.dawncenter.or.jp/libsrch/index.jsp>

14:10-14:40 豊後レイコ氏に聞く

14:45-15:15 川上繁治氏に聞く

15:20-15:50 質疑

- ◆ 豊後氏、川上氏への質問項目を事前にお伝えし、お二人に関係資料をご用意いただく予定です。お二人への質問事項を、4月末までに上記小黒までご連絡ください。

会場案内



『あるライブラリアンの記録』正誤表

p. 6	5行目	1984年	→	1948年
p. 9	下から6行目	浜村	→	浜浦
p.10	2行目	繻花	→	棉花
p.21	下から15行目	N-11	→	G-11
p.28	9行目	1964年	→	1963年
	19行目	同年	→	翌64年
	20行目	会	→	回
p.38	3行目	1636年	→	1936年
	15行目	大阪 CIE	→	大阪アメリカ文化センター

日本図書館文化史研究会
2009 年度研究集会のご案内

2009 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、おおむね下記のように開催することになりました。多くの方の参加を期待します。

なお、個人発表の内容など詳細につきましては、ニューズレター次号でお知らせします。また個人発表の内容などが決定次第、研究会のウェブサイトに掲載します。

記

- 日 程： 2009 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）・14 日（月）
- 会 場： 皇學館大学・伊勢キャンパス
三重県伊勢市神田久志本町 1704
<http://www.kogakkan-u.ac.jp/>
- ※ 懇親会会場： 伊勢内宮前すし久
伊勢市宇治中之切町おかげ横丁内
<http://www.okageyokocho.co.jp/shop/sushikyu.html>
- 交 通： 伊勢市駅（JR・近鉄）または宇治山田駅（近鉄）より、内宮行（徴古館前経由）または宿浦行バスに乗車（約 10 分）、皇學館大学前下車。または徒歩約 15 分
<http://www.kogakkan-u.ac.jp/html/index/p06.html>
- 参加費： 2,000 円
※ 懇親会参加費：7,000 円
- 申込方法： 次の事項を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込み下さい。
氏名（ふりがな）
所属
懇親会参加の有無
オプションツアー参加の有無
- 申込先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908 作新学院大学
司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール：oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス：028(670)3671
- 申込締切： 2009 年 8 月 31 日（必着）

○ プログラム

第1日：9月12日（土）

オプションツアー（詳細は6ページをご覧ください）

第2日：9月13日（日）

午前中 40分程度で神宮文庫見学（希望者）

12:00- 受付開始

12:30-13:30 会員総会

※ 審議未了の案件がある場合、2日目の個人発表終了後に引き続き審議します。

13:40-17:00 シンポジウム「これからの図書館史教育と図書館史研究」（仮）

13:40-13:50 開会挨拶

13:50-14:20 シンポジウムの趣旨 小黒 浩司（作新学院大学）

14:25-15:05 報告① 柴田 正美（帝塚山大学）

15:10-15:50 報告② 志保田 務（桃山学院大学）

16:00-17:00 全体討論

17:30-19:30 懇親会

第2日：9月14日（月）

10:00-15:00 個人発表 4件

15:00-16:30 運営委員会

※ 13・14日は、学内の食堂が休業となりますので、ご注意ください。14日の昼食については、弁当の注文を受け付ける予定です。

※ 宿泊のあっせんについては、現在検討中です。

日本図書館文化史研究会
2009年度研究集会個人発表募集のお知らせ

2009年度研究集会・第3日（9月14日）での個人発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記事務局までお申し込みください。

発表時間は質疑応答を含めて1件1時間程度を予定しています。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200字程度）

2009 年度研究集会オプショナルツアーのご案内

2009 年度研究集会の前日に、以下のようなオプショナルツアーを実施予定です。あわせてのご参加を期待します。

なお、ツアーの詳細についても、決定次第、研究会のウェブサイトに掲載し、ニューズレター次号でお知らせします。

1. 日 時： 9 月 12 日（土）午後
2. 内 容： 近世松阪の出版・蒐書文化と伊勢商人の文庫見学
3. 見 学 先： 継松寺（「岡寺版法帖」と板木）、商家の佇まいと西荘文庫（散策）、御城番屋敷と松阪城跡（散策）、竹川家（射和文庫とその蔵書）、射和・中万の佇まいと国分・富山・中井家（散策）、竹口家（文庫と蔵書）などを予定
4. 集合時間： 13 時
5. 集合場所： 松阪駅北口（近鉄側）前
<http://railway.jr-central.co.jp/station-guide/tokai/matsusaka/index.html>
http://www.kintetsu.co.jp/station/station_info/station_18008.html
6. 参加費： 未定（マイクロバスを利用しての移動になります）

『図書館文化史研究』第 27 号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第 27 号の原稿を募集中です。
原稿の締め切りは、2009 年 12 月末日です。ふるってご投稿ください。
なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。
次号（109 号）掲載を希望される場合、2009 年 6 月末日までに別記事務局宛原稿をご送付ください。
今後ニューズレターでは、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報して行きたいと思えます。会員・非会員を問わず、関連業績などを事務局までご連絡ください。皆さまのご協力をお願いします。

日本図書館文化史研究会
2008年度第3回研究例会報告

2008年度第3回の研究例会は、はこだて外国人居留地研究会との共催で、函館市中央図書館大研修室を会場に、2009年3月20日に開催されました。今回の例会は、初めての北海道地区での実施となりましたが、参加者は本研究会23名、はこだて外国人居留地研究会5名の合計28名を数え、大変な盛会となりました。

例会は、14時より阪田代表の挨拶で始まり、次の3件の発表が行なわれました。いずれも、北海道・函館という地域、函館図書館に因んだ発表であり、今回の例会にふさわしい内容でした。

- 兎内勇津流（北海道大学スラブ研究センター）：イワン・マホフ「ロシアのいろは」をめぐって
- 藤島 隆（北海学園大学）：岡田健蔵と二人の図書館員
- 谷 映子（日本児童文学学会北海道支部）：函館図書館（私立、市立）の児童サービスと「罹災児童同情雑誌・図書」

発表終了後、「岡田健蔵を語る」と題して、岡田弘子氏へのインタビューを行いました。まず、梅澤幸平氏（滋賀県審議員）から岡田弘子氏と函館図書館についてご紹介がありました。ついで、中山公子氏（函館市中央図書館長）が聞き手となり、岡田氏への聞き取りを行いました。

インタビューは、あらかじめ用意した質問項目に沿いながら、中山氏から岡田氏よりお話をうかがう形で実施しました。岡田氏には、ご尊父健蔵氏のこと、函館図書館の歴史などについて、時間を大幅に超過して、詳細に質問に答えていただきました。

翌3月21日午前、オブショナルツアーとして、函館図書館旧館の見学会を実施しました。中山館長にご案内いただきながら、旧館の内外をじっくりと見学することができました。

終わりにになりましたが、このたびの研究例会開催に際しお世話になりました中山館長をはじめ函館市立図書館の皆さまに、心よりお礼申し上げます。また、今回の例会については、企画などで梅澤幸平氏にご協力をいただきましたことを申し添えます。

本研究会では、会員の皆さまのご助力を得ながら、今回のような研究例会を、今後も各地で開催することを計画しています。皆さまからのご提案、ご要望などをお待ちしています。

なお、研究例会の発表レジュメをご希望の方は、事務局までお申し出ください。『ニューズレター』次号に同封してお届けします。

（事務局 小黒記）

「図書館に関する科目のあり方報告書（案）」への意見を提出

文部科学省「これからの図書館の在り方検討協力者会議」（以下協力者会議）は、1月16日、「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告)(案)」（以下報告書案）を公表し、これに対する意見募集を実施しました。報告書案全文は、同省のウェブサイトをご覧ください（<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=Pcm1010&BID=185000361>）。

2008年7月に明らかになった協力者会議の、大学において履修すべき図書館に関する科目の試案では、現行の司書講習科目での選択科目「図書及び図書館史」に相当する科目が存置されませんでした。そこで本研究会では、「図書及び図書館史」に相当する科目の設定を求める要望書を、9月14日の会員総会で採択し、文部科学大臣などに提出しました（『ニューズレター』106号,p.3-7）。

今回の報告書案では、選択科目の一つとして「図書・図書館史」が設定されました。このことは、要望書提出など本研究会の活動が、一定程度反映されたものとも考えられます。しかしながら、報告書案は本研究会の要望を全面的に取り入れられたものではなく、図書館史教育の一層の充実を求めていく必要があると思われました。

そこで、上記報告書案の公表と意見募集に対して、1月24日に臨時運営委員会を開催し、以下のような研究会の「「図書館に関する科目のあり方報告書(案)」への意見」を取りまとめ、25日に文部科学省に提出しました。

前記の要望書問題を審議した会員総会では、臨時研究例会を開催し、この問題について十分な議論を行うべきであるなどのご意見を頂戴しました。今回も本来ならば、広く会員の皆さまのご意見を聞き、意見書を作成する必要がありました。しかし、報告書案の公表から意見募集締切までの期間が極端に短く、残念ながらそうした機会を設けることが不可能でした。この点ご了承をお願いします。

なお、本号掲載のご案内のように(4～6ページ)、2009年度研究集会では「これからの図書館史教育と図書館史研究」(仮)と題してシンポジウムを開催予定です。このシンポで、この間の研究会の取り組みを総括し、あわせて今後の課題と展望を皆さまとともに考えたいと思います。

今回の協力者会議の科目案、あるいはそれに対する研究会の意見提出につきまして、会員の皆さまのご意見などを、事務局までお寄せください。

(事務局 小黒記)

- (1) 件名： 「図書館に関する科目のあり方報告書（案）」への意見
- (2) 名称： 日本図書館文化史研究会
- (3) 職業： 法人

- (4) 住 所： [略]
- (5) 電話番号： [略]
- (6) 意 見

日ごろは、図書館の発展のために種々ご尽力いただき、ありがとうございます。私ども日本図書館文化史研究会は、図書館やメディアの歴史を研究する図書館職員や研究者の団体です。

さてこのたび、文部科学省生涯学習政策局に設置された「これからの図書館の在り方検討協力者会議」（以下、協力者会議）では、大学において履修すべき「図書館に関する科目」の改善をおもな内容とした「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(案)」（以下、「報告書(案)」）を報告されました。

私どもは、この「報告書(案)」を、大変によく吟味されたものであると高く評価します。しかしながら、これからの司書の養成内容に必要な視点として、歴史的な観点が重要であることを、より鮮明に打ち出す必要があると考えます。そこで「報告書(案)」に基づき、これを補強する立場で、「図書館に関する科目」の内容と在り方につきまして、本研究会としての意見等を以下に申し述べますので、ご配慮方、よろしくお願い申し上げます。

「報告書(案)」では、司書に求められる資質・能力として、「将来のビジョンをもつこと」が挙げられていますが、このためには、行政知識や情報技術能力を磨く前段として、図書館の歴史に対する十分な理解が必要と考えます。現代を歴史の流れのなかに位置づけて考えることができない司書には、「これからの図書館像」を描くこともできないと思います。

図書館に関する科目内容の基本的な考え方として、学生が実際の図書館の現状を十分理解し、関心を持つように配慮するとともに、図書館の社会的意義や必要性などの理解を図るためには、歴史的な視点が不可欠です。図書館の歴史を学ぶことは、図書館に対する認識を深めることとなります。

図書館業務に従事する基礎的な知識として、法学、社会学などとともに、歴史学の知識を学習することが重要と考えます。「報告書(案)」では、全体の内容が現状の制度・技術の理解にやや偏っており、将来展望の形成には不十分ではないかという危惧を感じます。

私どもは、上記のことから、「基礎科目」に図書館の歴史を学ぶ科目を設定することが望ましいと考えます。しかしながら、全体の科目数などの問題から、新たに「基礎科目」を追加することは困難であると推定されます。そこで、極力各科目のねらいに歴史的な視点を明示し、内容に歴史に関連する項目を設け、必要最小限の知識を全員が得られるようにすることが望まれます。

このことについて、私どもと協力者会議の認識はほぼ一致していると思われます。「報告書(案)」では、この点について一定の配慮がすでに盛り込まれています。「図書館概論」の科目のねらいに「図書館の歴史と現状」が、内容 5) に「図書館の歴史」が挙げられています。また、「図書館情報資源概論」でも、科目のねらいに「(略) 図書館情報資源について…歴史…等の基本を解説する。」

があり、内容 1)に「(略) 資料の歴史を含む」が挙げられています。

そこで次の 2 点を加えることを提案します。

① 「図書館サービス概論」の科目の内容について

内容 2)に、「図書館サービスの変遷」があるので、図書館サービスの歴史的
理解を促すよう、ねらいの文を「(略) 接遇・コミュニケーション等の課題の現
状と歴史を解説する。」に改める。

② 「情報資源組織論」の科目の内容について

内容 2)の「書誌記述法」と 4)の「主題分析と分類法」に、目録規則や分類法
の歴史を学習するように、ねらいの文を「(略) 書誌データの活用法やそれらの
歴史等を解説する。」に改める。

次に、「選択科目」の科目名とその考え方について、意見を述べます。

「図書・図書館史」など種々の選択科目が設置されたことで、各大学がその
特色を生かしたカリキュラムの編成が可能となりました。この点について、私
どもは「報告書 (案)」を支持します。そしてより一層の充実をはかるために、
次の 2 点を提案します。

① 「図書・図書館史」の科目の内容について

ねらいの文を「必修の各課目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める
観点から、図書をはじめとする各種図書館資料の、(以下略)」に改める。

現在図書館で扱う資料の多様化が進んでいます。このことについても協力者
会議は十分に認識しておられ、これまでの「図書館資料」にネットワーク上の
情報資源を加え、これらを包括するものとして「図書館情報資源」という名称
を採用されました。

ところが一方で「報告書 (案)」では、「図書・図書館史」の科目名で、その
ねらいも「図書の形態、(略)」となっており、図書の歴史のみ学習すれば事足
りよう受け取られるものとなっています。図書館資料の多様化に対応するた
め、科目名を「図書館情報資源と図書館の歴史」とするのも一案と考えます。
しかし科目名は簡潔であることが求められると推察されます。そこで科目名は
このまま「図書・図書館史」とし、そのねらいの文で図書以外の資料の歴史等
も扱うことを明確に示すべきと思われます。

② 「図書館情報資源特論」の科目の内容について

ねらいの文を「(略) 図書館情報資源に関する領域から、資料の保存・劣化対
策、アーカイビング等の課題を選択し、(略)」に改める。

この科目のねらいは、やや抽象的であると思います。図書館情報資源に関す
る領域の課題のなかから、重要な課題を具体的に示すことが適切であると考え
ます。

以上

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 5月16日(土) 16時～17時
- 場 所 ドーンセンター(大阪府立総合女性センター)4階中会議室
- 内 容
 1. 2008年度決算について
 2. 25周年記念事業剰余金の使途について
 3. 2009年度事業計画・予算について
 4. 2009年度研究集会・総会について
 5. 2009年度第2回研究例会について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2009年3月7日
場所：明治大学

以下のような事項について、協議しました。

1. 2009年度研究集会・総会について
2. 2008年度第3回研究例会について
3. 『図書館文化史研究』第26号について
4. 2009年度第1回研究例会について
5. 「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目」について
6. 2009年度からの運営体制について
7. 25周年記念事業剰余金の使途について
8. 2008年度第2回例会決算について
9. 2008年度決算について
10. 2009年度事業計画・予算について
11. 『ニューズレター』第107号について

ほか

事務局だより

■■ 事務局の変更について ■■

2009年度より、事務局担当が三浦太郎氏（明治大学）になりました。ただし混乱を避けるため、段階的に業務を移行することとしました。2009年度第1回例会、研究集会などについては、旧事務局が担当します。また『ニューズレター』の発行も、当面旧事務局が行ないます。

事務局の変更にあわせて、運営委員の役割分担を見直し、一部委員の入れ替えを行ないました。新しい運営委員会体制については、次回運営委員会で確定し、『ニューズレター』次号でご報告する予定です。

■■ 25周年記念事業剰余金の使途について ■■

25周年記念事業剰余金の使途について、運営委員会で検討した結果、次のような方向で引き続き検討を進めることになりました。

1. 研究会の一般会計から分離する。
2. 図書館文化史研究の奨励・顕彰の制度を設ける。

このことについて、会員の皆さまからのご提言などをお待ちしています。

■■ 会費納入のお願い ■■

2009年度会費の納入をお願いします。会費は3,000円です。会費を納めていただく方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙を同封しました。

なお、日本郵政公社の窓口扱いの口座送金手数料が値上げされました。つきましては、会費の送金は極力ATMをご利用くださるようお願い申し上げます。

■■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、あるいは封筒貼付の宛名ラベルの記載が不正確な場合、早めに事務局までご連絡ください。

■■ 会員動向 ■■

退 会

加藤大博、塩田一徳、鈴木 守、田野信子、長谷康夫、野村知子